

森からのお手紙

2号
2018

Topics

森のこよみ
お墓の引っ越し、「改葬」について
お客様物語 川口順子さん

お客様 物語

第2回



今回のお客様
川口順子さん

開苑から一年半、多くのお客様との出会いがありました。お一人お一人積み重ねてこられた人生が異なるように、お墓の選び方も実に様々です。その想いや考えは、今お墓を探している方々にとって参考になるのではないかと思います。契約された方の声を少しずつお届けしたいと思えます。

神奈川県大和市にお住まいの川口順子さんは、ご主人を亡くされてから10年以上、ご遺骨を側に置いていました。

「生前に冗談半分に『戒名はいらないよね』というような話をしていました。それは、普通に仏式でお葬式をして…ということではないので、献花をして先輩、友人に思い出を語って頂くお別れ会としました」。いつもご夫妻で山登りに出かけ、ご主人の背中を見て歩いていた川口さん。ご主人は、たまたま一人で山へ出かけた時に急病で亡くなりました。大好きだった山への散骨を考え、準備も

聞かせてもらったとき、自分の出身が釧路なので、釧路湿原の話やラムサール条約の話、そして墓苑の自然を再生するというコンセプトが心にトントントントと入ってきたんです。そして職員の方も丁寧に対応してくださるので、信頼できると思いました」

「50年も経ったら（身内で管理する人が）誰もいなくなりますしね。実際、今の時代は『墓じまい』などという言葉が出ていますし。土に還る、森になる。私はそれでよし、と思っています。そして『森の墓苑』は自然を豊かにしようとする手助けもできるのがうれしいですね。これに関しては娘も同じ意見でしたし、主人も同じだと思います」と話してくれました。

また、ご主人は千葉県富津市の出身で、森の墓苑が親族の方々の中間地点にあるというのも選んだ理由の一つです。川口さんは合葬墓「こなら」に、ご主人の分と、ご自分の生前契約もされました。「墓地の区画図を見ていたら、たまたま主人の命日にあたる数字と、私の誕生日にあたる数字があったんです。同じ場所ではないけれど、人間生まれた時も一人なら死ぬ時も一人。その2箇所に決めました」

していましたが、法律の問題から難しく断念。またお寺や公園墓地などで徐々に広がりを見せていた樹木葬などもやはり「何か違う」と思っていたそうです。それならばと側に置いておき、「気づいたら10年が経っていました」

川口さんが「森の墓苑」を知ったのは、読売新聞に掲載された記事を読んだのがきっかけです。「ああ、これだったら自分達の考えにあっている」と思い、すぐに電話をして東京説明会に参加しました。「協会がどのような団体か、やっているトラストのお話などを

平成28年7月、親族の方々とともに、献花をしてご納骨されました。折しもご納骨された年はご主人の13回忌にあたる年。重なったいろいろな偶然を思うと導かれたかのようです。ご納骨が済んだ後の気持ちについて「ほっとしました。言葉にするのは難しいけれど、娘の負担も考えたとき、私に何かあった際の道筋をつけられたから」と川口さん。「私はガラケーなのでよくわからないのですが、娘がスマホで森の墓苑のインスタグラムを見て、『今こんな花が咲いているよ』と、私に見せてくれたりします。そうやってここにいないがらにして墓苑の様子がわかるのもいいですね。今の時代にあっているサービスだと思います」

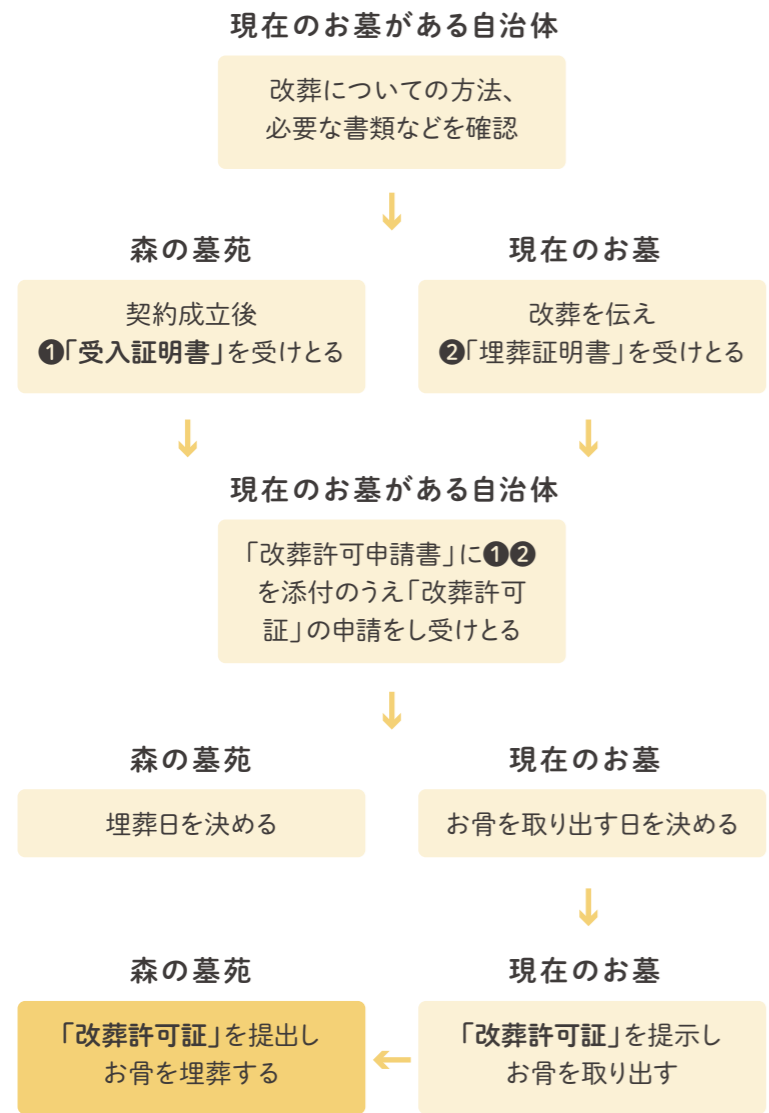
「日々を丁寧に生きる。自分自身に忠実であること。『日々是好日、日々新たな日』ですね」。清々しい笑顔で話してくれました。



お墓の引っ越し、「改葬」について

家の引っ越しには住民票の変更などをしますが、お墓の引っ越し「改葬」にもそのような手続きが必要です。自治体などにもよりますが手続きや日程の調整など、最短でも1ヶ月以上はかかる場合が多いようです。

森の墓苑に改葬する場合、お客様が行う手続き例



自治体やお墓により名称・手続き等異なります。詳しくはご確認ください。



森の墓苑

自然のなかに眠り森を育てる

見学予約
問い合わせ

(公財)日本生態系協会 森の墓苑東京事務所
東京都豊島区西池袋2-30-20音羽ビル
フリーコール 0120-901-580 (9:00 ~ 18:00)
ホームページ www.morinoboen.org

《オシドリの産卵》

今年の5月、世界でもっとも美しいと言われているオシドリが、森の墓苑の巣箱でたまごを生みました。オシドリは千葉県では数が少なく、重要保護生物に指定されています。オシドリは、普段は水辺で過ごし、どんぐりや昆虫などを食べて、樹の洞などで子育てします。オシドリが住んでいるということは、森の墓苑がすばらしい自然に抱かれている証しとも言えます。実はこの巣箱、春先にフクロウのためにかけたものですが、広くて居心地が良かったのでしょうか。オシドリの家になったのです。しかし、今回は途中で親鳥が子育てをやめてしまい、残念な結果となりましたが、来年こそはかわいいチビちゃんたちにお目にかかれるようにオシドリの巣箱も新たに付ける予定です。



《ゲンジボタルとヘイケボタル》

梅雨入り前には、森の墓苑の近隣でゲンジボタルとヘイケボタルの共演が見られました。スタッフも息を飲むほどの美しい乱舞でしたが、地域の方によれば、それでも例年の半分だとか…。ゲンジボタルは清らかな水の流れに住み、ヘイケボタルは水田、湿地といった



ところに生息しています。近年は水辺環境の変化で、住む環境が狭まってきていますが、町内にはホタルのいる水辺がまだまだ多くあり、自然の豊かさを感じます。

森のこよみ

《「森と草はらの再生プロジェクト」と「植樹草会」》

自然がもっと早く、豊かに育つよう、一般の方や企業、学生に森づくりに参加してもらおう『森と草はらの再生プロジェクト』を始めました。在来植物の植え付けや、種の採取、外来植物の抜き取りなどの作業があります。3月の「植樹草会2018」では苗木の植樹、野草の種まきなど、契約者のみなさまにも森づくりをお手伝いいただきました。そうしたことをお客さまや多くの人達と楽しいお話しをしながら、来年のための種あつめを進めています。



《その他お知らせ》

◆出張説明会を随時開催

今年から、終活の支援団体や図書館、デパートに出張し、自然に優しい生活・終活、生きものや自然、当苑のことなど、幅広くお話ししていきます。来年は1月16日(水)京王百貨店新宿店より始まります。ぜひご参加ください。

◆見学やお墓参りについて

平日にご来苑の際は、スタッフ不在の場合がありますので、前日までにご連絡ください。開苑時間9〜16時。

◆年末年始について

12月29日(土)〜1月3日(木)は休苑いたします。予めご了承ください。